

2018年3月13日

九州産材 100%！CLT 工法を用いた新熊本支社が 熊本駅高架下に誕生します！

熊本市を事業主体として実施される熊本駅白川口駅前広場整備事業に伴い、熊本支社が 2018年3月26日に新幹線および在来線高架下へ移転します。

当社ではグループの中期経営計画にて“地域を元気に”をスローガンに掲げ、地元木材を用いた車両・駅舎等の木質化を積極的に図ってきましたが、新熊本支社においても地元熊本県産材をはじめとした九州産木材の積極的な利用を行うため、CLT（Cross Laminated Timber）工法^{※1}を一部採用しております。また、新熊本支社は環境省の補助事業である「木材利用による業務用施設の断熱性能効果検証事業」^{※2}を活用した初の事務所となります。



新熊本支社エントランス（外観）

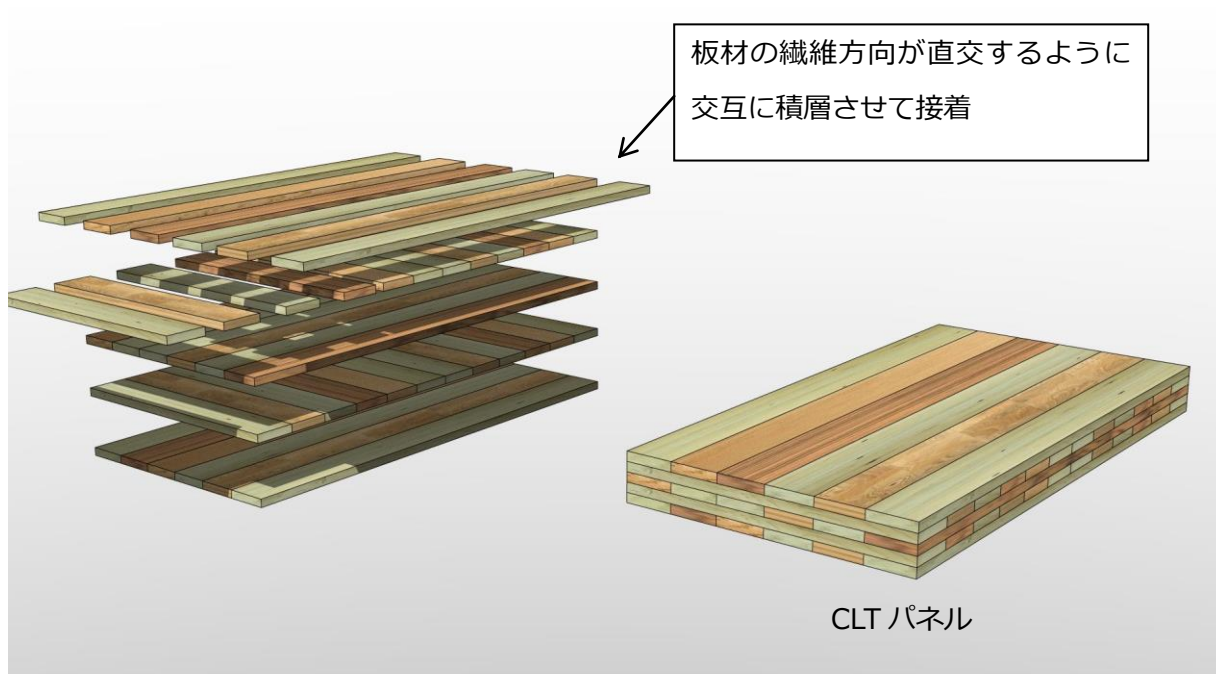


新熊本支社エントランス（内観）



新熊本支社会議室

※1：CLT（Cross Laminated Timber）工法とは、板材の繊維方向が直交するように交互に積層接着した厚型パネル(CLT)で空間を構成する工法で、CLT 材は高い寸法安定性が得られるほか、断熱性能や大判パネルとして利用することで高い耐震性能が期待されます。



※2：「木材利用による業務用施設の断熱性能効果検証事業」とは、CLT（Cross Laminated Timber）等を用いた高い省エネ・省CO2につながる低炭素建築物等の普及を促進するため、CLT等を用いたモデル建築物を建設し、その断熱性能をはじめとする省エネ・省CO2効果について定量的に検証を行うことを目的としています。熊本支社事務所はCLT造と鉄骨造の混構造で、CLT造と鉄骨造を比較することによりCLTの断熱性能等を検証していきます。